

# 排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：

自動車・オートバイ部品工場における  
照明設備の更新

排出削減事業者名：株式会社 飯野製作所

排出削減事業共同実施者名：一般社団法人 低炭素投資促進機構

その他関連事業者名：

## 1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	株式会社 飯野製作所
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	田島工場
住所	〒967-0014 福島県南会津郡南会津町糸沢字森前 511 番地
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業共同実施者名	一般社団法人 低炭素投資促進機構
その他関連事業者	
関連事業者名	

## 2 排出削減活動の概要

### 2.1 排出削減事業の名称

自動車・オートバイ部品工場における照明設備の更新

### 2.2 排出削減事業の目的

株式会社飯野製作所・田島工場において照明設備を高効率化し、使用電力量を抑制することにより、CO2排出を削減する。

### 2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

高効率照明設備への更新

### 2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

### 2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

### 3 排出削減活動期間

#### 3.1 プロジェクト開始日

2013年2月12日

#### 3.2 モニタリング対象期間

(本報告における実績報告期間)

2015年4月1日～2018年2月11日

### 4 温室効果ガス排出削減量

#### 4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
006	照明設備の更新

#### 4.2 活動量

##### 4.2.1 活動量・原単位

対象	活動量	原単位
(方法論 006) 電力使用量	照明設備稼働時間 (h)	設備定格電力(kW)

##### 4.2.2 活動量の採用根拠

排出削減方法論において次のように指定されているため、それに従って照明設備稼働時間を採用した。「事業実施前及び実施後の活動量には、照明設備のエネルギー使用量に最も影響を与える活動量として照明設備稼働時間を採用する。照明設備稼働時間とは、照明設備を使用している時間帯のことであり、全点灯時間のほかに、人感・昼光センサー、タイマー制御、個別スイッチによる間欠的な消灯時間や調光点灯時間を合わせた合計時間を指す。

$$\text{照明設備稼働時間} = \text{全点灯時間} + \text{調光点灯時間} + \text{間欠消灯時間}$$

※ここでは、調光点灯時間、間欠消灯時間はないため、各施設における全点灯時間のみとする。

#### 4.3 事業の範囲（バウンダリー）

本事業のバウンダリーは、株式会社飯野製作所・田島工場で、具体的には次の範囲である。田島工場・第1工場、第2工場、ダイカスト製造工場における照明設備（点灯・消灯装置を含む）および当該設備による照明が行われる範囲。

## 5 モニタリング対象指標

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法に変更あ る場合、) 変更理由
$CO_2F_{electri}$ $city,t$	電力の二酸化炭素排出 係数	t-CO <sub>2</sub> /k Wh	0.000531 t-CO <sub>2</sub> /kWh (2015/4/1~2016/3/31)  0.000516t-CO <sub>2</sub> /kWh (2016/4/1~2018/2/11)	デフォルト値 $CO_2F_{electricity,t} = C_{mo} \cdot (1-f(t)) + C_a(t) \cdot f(t)$ ここで、 t : 電力需要変化以降の時間 (事業開始日以降の経過年) C <sub>mo</sub> : 限界電源二酸化炭素排出係数 C <sub>a</sub> (t) : t年に対応する全電源二酸化炭素排出係数 f(t) : 移行関数 $f(t) = \begin{cases} 0 & [0 \leq t < 1 \text{ 年}] \\ 0.5 & [1 \text{ 年} \leq t < 2.5 \text{ 年}] \\ 1 & [2.5 \text{ 年} \leq t] \end{cases}$	
$R_{BL006-A}$	ベースライン電力使用 量の原単位	kW	225,157	カタログ値	
$T_{PJ006-A}$	事業実施後の実績報告 期間活動量	h	174,216	就業規則より算定	
$R_{PJ006-A}$	事業実施後の電力使用 量の原単位	kW	115,975	カタログ値	

## 6 排出削減量の計算

### 6.1 事業実施後排出量(2015.4.1~2018.2.11)

期間	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2015年4月1日 ~2018年2月11 日	174,216h (2015/4/1~2016/3/31)	115,975kW	(2015/4/1~2016/3/31)	259.2t-CO <sub>2</sub>
	61,000h (2016/4/1~2018/2/11)		0.000531 t-CO <sub>2</sub> /kWh (2016/4/1~2018/2/11)	
	113,216h		0.000516 t-CO <sub>2</sub> /kWh	
EM <sub>PJ</sub>				726.6 t-CO <sub>2</sub>

### 6.2 ベースライン排出量(2015.4.1~2018.2.11)

期間	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2015年4月1日~ 2018年2月11日	174,216h (2015/4/1~2016/3/31)	225,157 kW	(2015/4/1~2016/3/31)	503.9t-CO <sub>2</sub>
	61,000h (2016/4/1~2018/2/11)		0.000531 t-CO <sub>2</sub> /kWh (2016/4/1~2018/2/11)	
	113,216h		0.000516 t-CO <sub>2</sub> /kWh	
EM <sub>BL</sub>				1,412.7t-CO <sub>2</sub>

### 6.3 リークージ排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
LE			0 t-CO <sub>2</sub>

### 6.4 温室効果ガス排出削減量

項目	記号	削減量
ベースライン排出量 (7.2)	EM <sub>BL</sub>	1,412.7t-CO <sub>2</sub>
事業実施後排出量 (7.1)	EM <sub>PJ</sub>	726.6t-CO <sub>2</sub>
リークージ排出量 (7.3)	LE	0 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス排出削減量	ER	686t-CO <sub>2</sub>

## 7 省エネルギー量

原油換算		
ベースライン (①)	実績 (②)	ベースライン－実績 (①－②)
697.1kL	358.5 kL	338.6kL

熱量換算及び原油換算において用いる換算係数については、エネルギー使用の合理化に関する法律（省エネ法）施行規則第4条に規定する換算係数を使用すること。

$$\underline{\text{省エネ量}} = 697.1 \text{ (kl)} - 358.5 \text{ (kl)} = 338.6 \text{ (kl)}$$

## 8 再生可能エネルギー利用量

該当なし。

	単位	モニタリング期間 ( 年 月 日 ~ 年 月 日 )		
		エネルギー使用量 (実績)	熱量換算 (実績)	原油換算 (実績)

各行には再生可能エネルギーの種別と利用量を記載すること。